

化石採集は初めての体験であったが、こんなにも簡単に見つかるとは思っていませんでした。驚きでした。大変楽しく興味深かったが、一時間もすると足先の感覚がなくなり、骨の芯まで冷えきってしまった。もっと色々な化石を見つけたかったが限界だった。時期をみて、また来たいと思う。

北川 恭史・道啓・聖治 (14-612・613・614)

親子で化石発見ができて、とてもうれしかった。身近な場所で二時間という短時間で、色々なことを体験できたことがとても良かったです。ロープの登り降りが、とてもおもしろかったようです。

石原 勉・慎也・佳奈 (14-164・166・167)

意外に身近なところで、化石採集ができることがわかりました。土器・石器となると発掘する機会は、ごく限られてしまうと思いますが、化石の場合はより庶民的なのかなと思いました。

小見 邦雄 (14-003)



私にとって、貴重な楽しい経験ができてうれしかったです。しかし、児童には難しいかもしれませんが、時間をとってもらい地層の説明(どのようにして、これらの地層ができたのか、海だった地質時代から現在までどのような変遷をたどってきたと考えられるのか、発掘できた貝の進化など)をしていただけたら、もっともっと興味が広げられるのではないかと思いますし、今度はそのような講座をしていただきたいです。

川上 益代 (14-593)

化石採集会 参加者の声



今日、かぶら川へ貝の化石を発くつに行きました。最初に橋の横から下までロープでおりました。発くつする場所について、先生が説明している時に、わたしの近くに大きな石があってその上に、その石のわれているのがあって、それをもち上げたら貝の化石がいっぱい入っていました。上の石をおろしたら、角がわれて貝の化石が一つ出てきました。先生の説明がおわって、ゴーグルとハンマーがくばられ化石発くつが始まりました。最初はあまり拾えなかったけれど、がけの上の方へ行ってみたら化石が4つくらい見つかりました。お父さんがまき貝のかせきを見つけてくれました。葉っぱらしき化石も見つかりました。先生が『まき貝はタマ貝のなかまだよ。』『二枚貝はだいたいウソジミ』と教えてくれました。

すぐに時間がおわってしまいました。でも、たくさん見つかったので、つかれたけれどよかったです。

岸田 夏美 (14-243 小3)

◆スケッチつきの感想文でしたが、紙面の都合上掲載できません。一生懸命書いたようすがよくわかります。ありがとうございました。

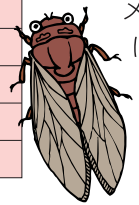
自然だより

私の家の周りには夏になると5種類のセミの鳴き声が聞こえます。しかし、どの種類のセミがいつ頃から鳴きだし、いつ頃から聞こえなくなるか、今まで意識したことはありませんでした。今年は、ふと、記録しようと思い立ち、その結果をまとめたのでご報告します。

セミの種類	鳴き初めの日	鳴き終わりの日	日数
ニイニイゼミ	7月9日	8月6日	29日
ヒグラシ	7月13日	8月15日	34日
アブラゼミ	7月20日	9月7日	50日
ミンミンゼミ	7月20日	9月12日	55日
ツクツクボウシ	8月5日	10月2日	59日

ヒグラシは、どことなく悲しい鳴き声で秋の初め頃のイメージを受けますが、出現は2番目に早くお盆の頃には鳴き終わります。ツクツクボウシは10月に入っても鳴き声を聞くことができます。参考までに10月10日『群馬の森』で鳴いていました。

剣持 雅信 (14-20)



友の会・ボランティア博物館等視察研修 平成14年11月23日(土)

県外の博物館を視察する「博物館等視察研修会」が、49名の会員と長谷川館長を始め6名の職員の総勢55名で11月23日に実施されました。視察先は約450種2万点もの生物が飼育されている新潟市水族館(マリニピア日本海)と直接参加しながら科学体験ができる新潟県立自然科学館でした。ダイナミックなイルカショーや実験・実演ブースの体験など楽しい研修が行われました。



はくぶつかんが楽しかった。とくに、遊ぶところが楽しかった。ありがとうございました。

吉田 結花 (14-220 小2)

6歳、8歳の子連れで参加させていただきましたが、子供が自然科学館が大変気に入って、もっとゆっくり来たいと言っています。この友の会の県外視察をきっかけに、他県の知らない博物館を知り、また足を運ぶことができるのでたいへん有難く思います。

吉田 真弓 (14-219)



水族館では、魚・かめ・イソギンチャクなど、たくさんの生き物がほんとうに健康に暮らしていて、その美しさに感動しました。魚のウロコの1枚1枚は整って輝き、体に傷が少なく育てられている方々の努力を感じました。

三田 恵 (14-191)

地域のことについての展示物が少なかったような気がした。その点、群馬県立自然史博物館はいいと思った。

三田 武志 (14-193 中学生)

何回も参加させていただいています。とても勉強になるので子供たちも参加できて、本当に良い企画だと思っています。一緒に参加する人のなかには、うるさかったりして迷惑になることもあるかと思いますが、大人の人も承知の上で参加していたらいいと思います。将来の博士を願って。孫もとても楽しんで大喜びなのです。

飯塚 幸枝 (14-539)

第17回企画展「マダカスカル島の生きものたち」 第2回友の会展示解説会

14年10月20日実施 解説 学芸課 高橋克之指導主事

今回の企画展が始まったときから、あの独特の形のバオバブの樹と、TVで見たおかしな歩き方をするワオキツネザルの二つが見たいと思っていました。でも、恥ずかしながら、私はマダカスカル島の位置さえ知りませんでした。展示は現在のマダカスカルで使用されている切手や紙幣、工芸品、そして貴重な動植物の展示、最後に現在のマダカスカル島の抱えている問題の提起となっていました。バオバブの樹の変わった光合成の仕組みやワオキツネザルに替わったクロキツネザルも良かったのですが、他の展示物、エピオルニス(オーストラリアの鳥)の化石やカメレオン、マダカスカルコックローチ等、本当に驚くものばかりでした。また、私費で行ってきたという高橋さんの話も、大変わかりやすく参加して本当に良かったです。今はインターネットで様々な情報が自宅に居ながらにして入ってくる時代ですが、やはり本物にはかないませんね。最近カメに凝っている小2の息子はハウシャガメを始めとしたリクガメに見入っていました。展示の最後で森の荒廃と現地の人との生活の関係の説明で、自然と人間の共存は難しいなあと思つづく感じました。

岡野 宏巳 (14-081)

今回の企画展は本当におそくなってから「解説会、行こうか。楽しそうだし。」ということで参加しました。そして、行ってみたらとてもたくさん楽しい物がありました。小2と2歳の弟は「おねえちゃん、これ何」「カメだ、カメだ」と言って、解説に聞き入っていました。私は特に見たいものはありませんでしたが、行ってみたら、バオバブの木、クロキツネザル、きれいな色の石など、目移りするほど見る物がたくさんあって、マダカスカル島の位置ぐらいいか知らなかった私がとても恥ずかしくなりました。でも、高橋さんの解説は分かり易かったし、とってもおもしろい物がいっぱいあって勉強になったから、やっぱり参加してよかったなあと思いました。

岡野 ななみ (14-083 10歳)